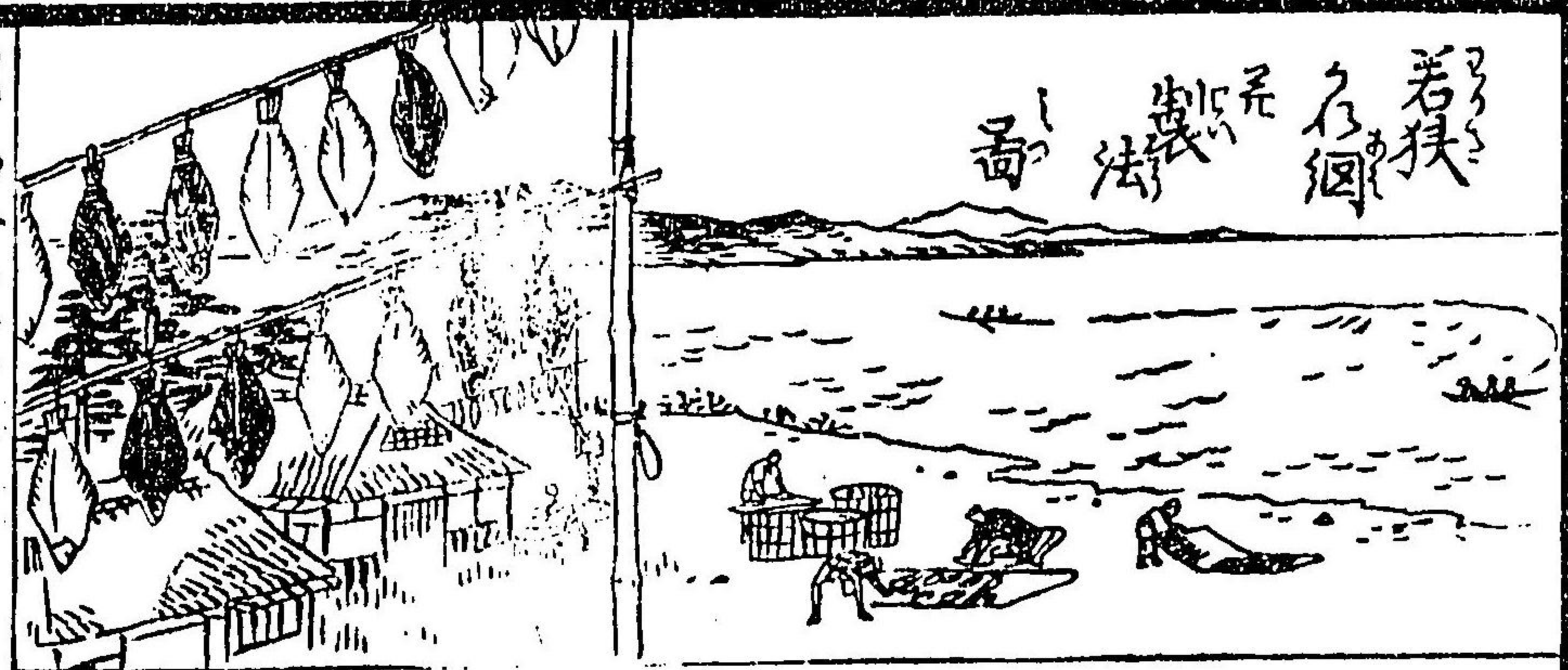


日本地理

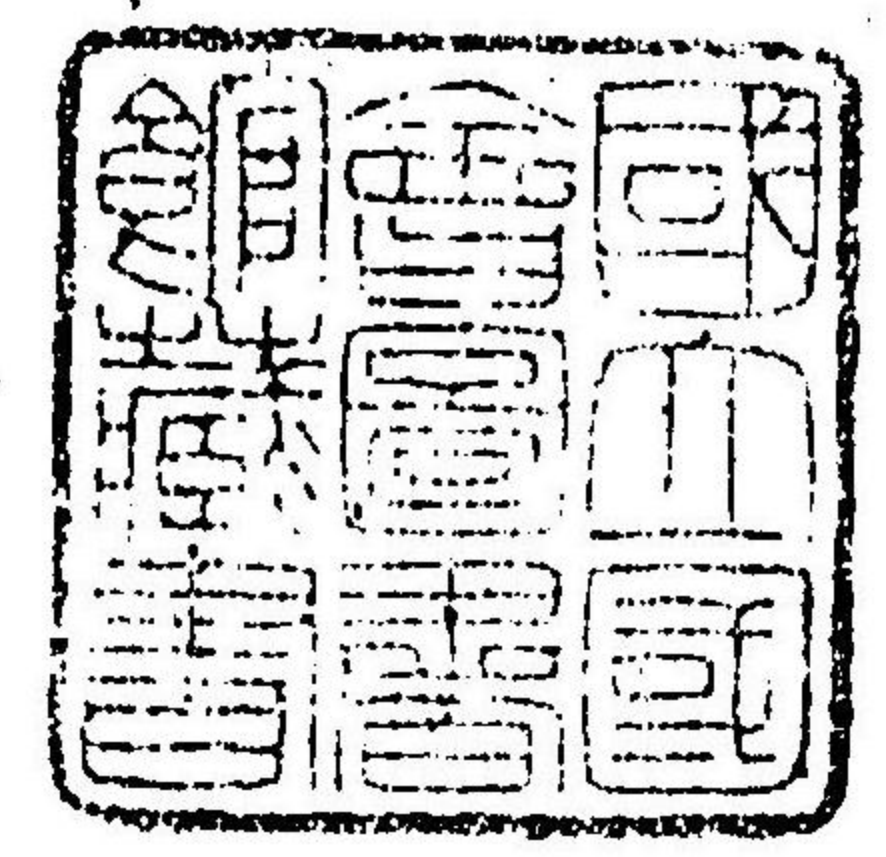
291.  
M/1982



也里生



北陸道七ヶ國。少海  
 乃方陸續。南  
 先第一若狭の島。丹波  
 路。少海の島。少海の島。



国立国会  
 29.10.19  
 図書館

348382



北陸道の往昔崇神天皇のころ辺夷王化命と北陸を征伐しひ翌年平治と帰陣し此時代北陸と越の国との其域廣大ふしと今の越前の地より遠く津輕乃

教ふるあり。少濱の磯屋分堂あり。石備の磯屋分堂あり。東空都る山多々。西教賢比羅江あり。若狭の山を

地まても越の国と越又高志とも書す

○若狭 三郡 大飯 遠敷 三方

田數三千百九丁

高九万千十八石

○土産 酒 厚紙 硯石 筆 辛灰 石灰 木履 碁石 蒸躰 海奥 和布 青鹽 菅 揚枝 木煮 扱字 薬州

園よ。白部各精。是乃。若狭をたれ。ま。越前。五郡の産を理。第三。加賀。北。東。南。を。花。山。橋。寺。白。山。あり。子。山。



○越前 八郡

今三南條敦賀足羽  
吉田丹生坂井大野  
田數三三昔主丁

高六万九千三百石

昔の越の国思廣大

也と後ふ越前越中

越后加賀能登出羽

六国に分らるる

願敦賀 越前三郡

敦賀を越前とす

乃地石川能登をこれと

能登一國を名にす

第四小能登を越中とい

ふあはれる大御在河内

足羽 越前五郡

○土産奉書 身子

雲紙素紙紙公奉書

油須崎布割紙布等

屑頭巾控綿切石紙

連天細代行李素紙

油桐駄馬漉漉鮭鱈

黄連

○加賀 四郡

河北石川能美江沼

印子河内を越中とい

西河内を越前とい

之を西河内とい

之を河内とい

第五と越中河内を



田數万平者飛了

高甲六万石余

古ハ加我ト書ナ仁徳  
天皇の御代越前国

小保と後弘仁十四年

越前国の二郡と割

て再び加賀国とかけ

驛 石川 鑿田 金沢

○土産 米 絹 撰 赤

蓋 萩原紙 鼓皮 澄手 洞

西ノ境ニシテオホ山ニ至ル

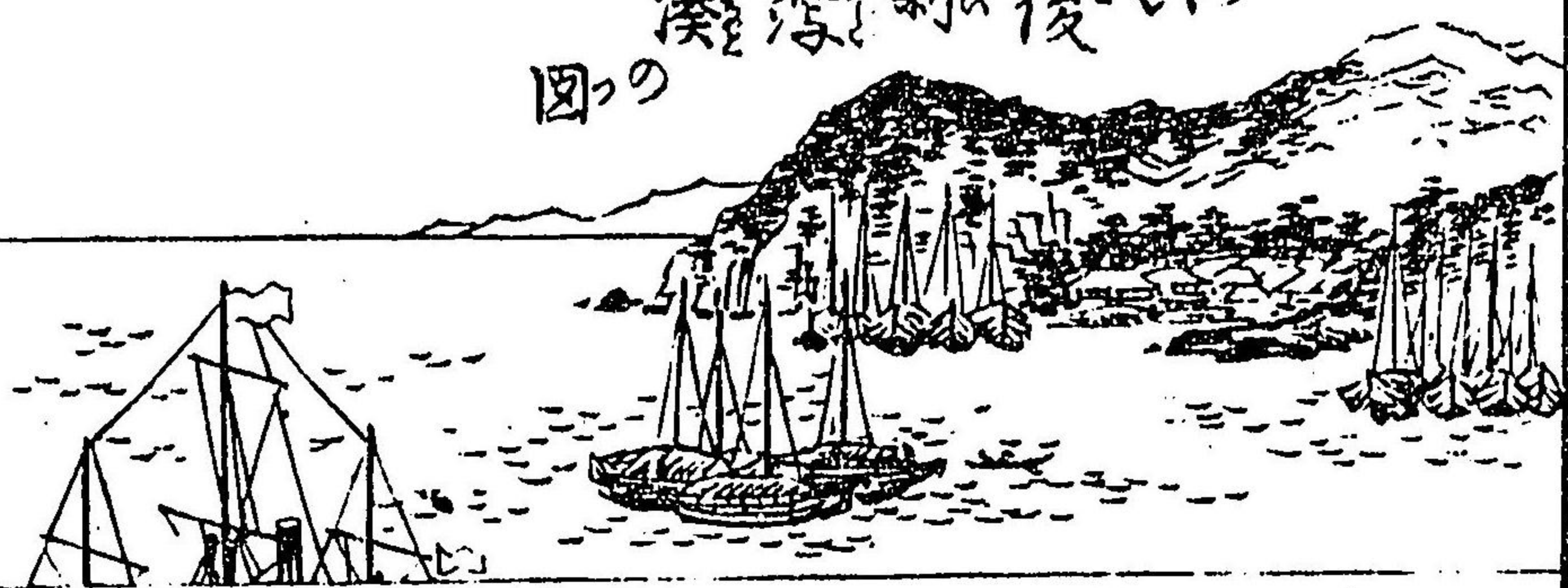
粟ノ原 碓氷山ニ至ル 日

佛ノ嶽 淨土立山 剱山 中

田津通 二川ありと 新川 縣

をそはるるをそはるる

越前新後新海漢の図



新海漢

第六新後を三城の中

極をてわろ方 附り 名

言まとい 全國よりして 山嶽を

是れ 新海漢の 坤を 記



象眼彫。硫黄。塩硝。黒梅。漆。

○能登 四郡

羽咋。鹿嶋。鳳至。珠洲。

田數八千四百九十九丁

高共万幸三百石余

古ハ能等と書ハ天平

宝字元年五月越中

と令々能登国と云ハ

○土産鯖。素藪。雪苔。

好光山。焚山。何まも噴

大まらし。尾姫山。名山。え。

赤水の端。旭山。名よる。北を

に。る。そ。海。こ。志。を。る。

大阿。る。る。し。信。流。川。を。し。は。

経。油。苔。九。万。足。珍。石。類。

○越中 四郡

射水。礪波。新川。婦負。

田數二千三百九十九丁

高八万八千石余

○土産新川一田

○土産。松。碓。砂。塩。硝。

絹。八。講。布。鯉。九。万。足。

○越後 七郡

此中央。貫。も。新。湾。の。港。

乃。方。へ。る。が。れ。入。る。大。井。山。を。

多。く。あ。る。を。水。も。あ。る。谷。浦。

出。る。是。を。種。此。二。つ。新。湾。

を。山。本。の。大。海。を。繋。







○土産金浪油幸  
黄連強藻小鯛

山陰道八國

崇神天皇卅十年丹波

道主の命小命一丹

波道ふき一伐しむ

十一年討平け帰陣

らりしなり。田道將軍ニ

れり

海防の要にして唐の北

右川の福治あり

山陰山陽ニさす。本為

能く長まると地南山海

其甲州。新製ニ及ん

陰のあやぐ。分國先

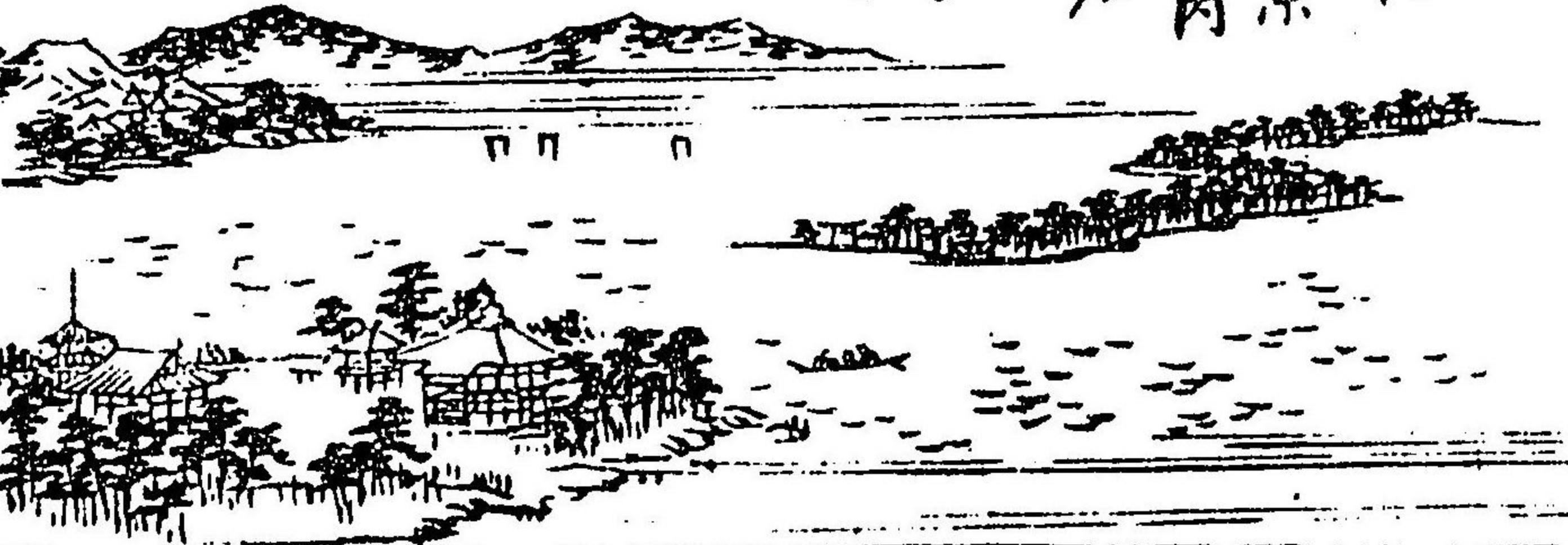
山陰北原次古地

第一是神母波と伝。山

志。西水。高。山。多。く。山。内。

會。水。右。川。と。成。り。丹。後。

日本三景の丹波大橋の景





○丹波 六郡

船井何鹿菜田多紀  
氷上天田

田數二万百五十丁

高三十二万四千石余

古ハ丹波又且波但  
波ト書ト

○土産茶 蠟 杖 丸 木  
煙州 蒲 筵 太布 芋 灰  
拾 灰 栗 藥 種 類

○丹後 五郡

夕佐 加佐 中 熊野 竹 堅

田數二万百五十丁

高十四万八千石

和洞六年四月丹波国

の五郡と割て當國と置

○土産 蠶 糸 緒 緬 紬

海 眞 鰯 鮪 海 松 葛 菴

胡 芦 蒲 葍 羊 海 光 海 鹿

○但馬 八郡

丹波に入る。其方往水を混

合。山城越の川源くるを

第一と丹後北とつゝ。及

多る。丹波の大河

南より。丹波入る。東

西海流。三河あり。中央

南。空を越る。岬を天の橋

立。是を。毛を。新。景

此。等。と。を。稱。一。多。此

第一但馬。吉川。多。河。浦



朝来養父二方七味  
気多城崎美舎出石

田數八千十二丁

高十四万四千石余

往古ハ但馬馬中多

速馬ともいふ

廳 豊岡但馬田元 豐岡

○土産 銀砥石 真綿

夢 小人参 若菜 黄連 白

木 半夏 温石 雁馬 特牛

長太江流ふる。東山海

すれ出づ。南方生野

山あり。群島海島の城

乃堂河ハ。京も名譽言れ浦

泉外里。遠くを糸ハ全國と

柳行李 益州 藤 香ら

細工多

○因幡 八郡

岩井 法美 八東 八上

智頭 邑美 高州 氣太

田數 八千七十八丁

高十七万八千石

古ハ 稻葉 米 稻 羽

廳 鳥取 元 鳥取

丹後一帯 丹波も三郡  
くもを官轄を

第四因幡も因幡川も内  
一面多法志を。終は一の

廣大ある。加苗川と成る。水乃



因幡一四  
伯耆一四  
隱岐一四

○土産 木綿海魚

帆立貝 日柱生糸 川

真海素 刺木 蠟 萩原

紙引田紙

○伯耆 六郡

河村久米 八橋 汗入

合見 日野

田數 八千十六丁

わさ流きそ束と海へ入る。

其鳥取と餘應あま因幡

伯耆と隠岐はま三國也

てのま程考

第五伯耆と南方ふんたを

北有る北と海と神

そむを程の三保が関を

對ひける取も島を大

山を西日相川東は

橋は内あまそはまを

不出雲の社





高二十八万石

昔ハ伯岐（伯岐）と伯伎（伯伎）共

書す

○土産 沃田（沃田）麩（麩）麩（麩）

華（華）鮑（鮑）履斗（履斗）木綿（木綿）

○出雲 上国 十郡

嶋根（嶋根）神門（神門）秋鹿（秋鹿）楯縫（楯縫）

出雲（出雲）飯石（飯石）仁多（仁多）大原（大原）

取義（取義）意年（意年）

田數九千九十六丁

皆少海ノ流き出た

第一本雲北國ノ家也

出雲楯縫秋鹿よりと多山

根とすは四郡の家すま

都て大岬長六ノ流きを色

高二十八万石

夫當國ハ神代ノむ

須佐ノ平命御みつ

不服人とも征伐を

ひより以末大己貴神

まて此國と所領

其年歴いと長く黄泉

はへ通ひる其道

なつとの傳人伊弉夜

坂の古跡なり

寺と椋葉北方社をとおし

日所善河に位田の浦より

多山楯縫秋鹿よりと多山

知事と玉成皆一高を管轄す

第七石見寺あり備はる



廳 島根一田 松江

○土産 蠟燭 十六島

苔 人參 和藥 木綿 秩

紋 緋 漆 鱧

○石見 六郡

安濃 迹摩 邑智 那賀

美濃 鹿足

田數 七千十三丁

高 十八万石余

廳 濱田一田 元濱田

つるが江は川を國內貫ち

て中を北乃海へと流出づ

西を川を落合とて角川の

ち河とて石見湾へ

なまれ出づ濱田縣治建

置ま其の國を名稱せ

第八隱岐を雲の北四島

合を分一とせし三を少とせし一

を矣岬湾多とて廣大とせ

別島連無教角一

○土産 銀 錫 弘 蜂

密防 風 碁石 樺

○隱岐 郡

海士 智美 重 哉 智 周 吉

田數 六百二十四丁

高 一万二千石余

○土産 桐材 菜材

和布 鮫 煮 海 鹿

上古の隱岐島と云

まこと意岐とも書入





山陽道乃八ヶ國

第一播磨をまはる。加古川

西をたれ河を中へ市内

小瀬を南の海岸の浦

舞を北濱より高き乃

○播磨 十六郡

明石。美濃。加古。印南。

加東。加西。多可。神東。

神西。飾。東。飾。西。揖。東。

揖。西。赤。穂。佐。用。完。栗。

田。敷。二。万。七。千。七。百。六。十。七。

高。六。十。五。万。石。余。

昔。針。間。と。書。け

懸。飾。磨。姫。路

是。山。陽。道。の。と。じ。や。と

社を遠く昔のね。その

名を数多。飾磨はね

其國。飾系。一。香。と。堂。権。氏

第一。美。作。山。國。あ。て。ま。あ

出。る。東。河。中。を。な。る。海。は







御野津萬赤坂盤梨  
和氣邑久上道見塘

田數二万五千六百六十

高四十二万石余

廳 岡山二山 岡山

往古ハ吉備國ト云々

龜元年備前備中備

後と三國ふかつ

○土産 木綿綿素

麩陶器茶州海魚類

好。岡山縣を其の國と一帯

笠摺心すすま架

第四備中と尖るる。南

流る河を運川車に運ぶ

八幡山の山をひか

○備中 十一郡

上房阿賀川上小田

後月下道賀陽都宇

浅口窪屋

田數二万八千三百

高三十六万四千石

廳 小田備中一田

古ハ吉備中縣又吉

備中国ともいふ

○土産 紫根木綿

赤瀧埴埴打はるるその

宮内と吉備津彦三備を

ちる渡の字みあると小田ふ

糸所北谷あり備中一國

備はるる。赤坂之坂者架と



鐵漆、秋原紙、小菊、大  
高檀紙、藤行李、柳子

○備後 十四郡

沼隈、深津、安那、呂治

芦田、神石、御調、世羅

三谿、三上、奴可、甲怒

三次、惠蘊

田數九千二百五十七畝

高三十万二千五石余

○土産 豐表、烟州

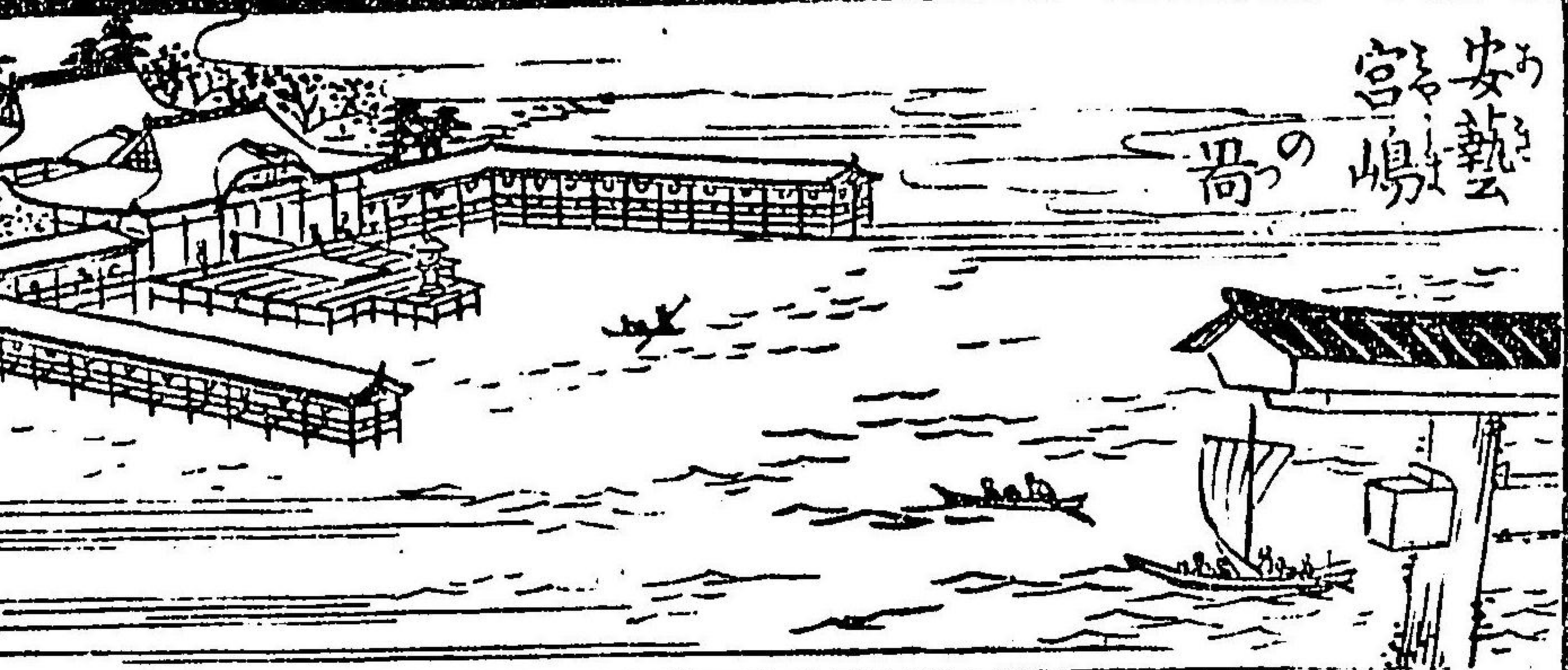
第五の備後を西北へ江乃

河をながれ石をふるまき田り

葦田川、南河、鞠津まきれ

わの。日東第一取橋也。

韓人等、攻者一ヶ所に



第六安藝は宮崎を本

郡三原は事ごとくまの申

安城内の川に懸る南の舟。

少屋河とゆり海をふる大島

少屋河と多一。廣大島船を



木綿綿。編笠

○安藝 八郡

沼田。佐伯。豊田。山縣。高宮。加茂。安藝。高田

田數二万七千四百

高三十二万石

廳 廣嶋安藝二郡備后八郡

○土產 半紙。紙子。水晶。葛筆。塩硝。釣柿。山葵。海魚。鰹。鱒。鱈。藍。

安藝一國。備後。八郡

管。管。管。管。管。管。管。管

管。管。管。管。管。管。管。管

第七。第七。第七。第七。第七。第七。第七。第七

方。方。方。方。方。方。方。方

古ハ安岐又ハ安木

とも書と

○周防 六郡

都濃。玖河。吉敷。熊毛

大嶋

田數七千六百七十五

高四十九万石

廳 山口長門二郡

往古ハ周防と書ハ

○土產 半紙。斤。打

高。高。高。高。高。高。高。高

長。長。長。長。長。長。長。長

第。第。第。第。第。第。第。第

少。少。少。少。少。少。少。少

少。少。少。少。少。少。少。少



書板紙紫漆布縮

布結鹿子三月筆

○長門 六郡

阿武豊浦大津厚板

美根見場

田數甲七百六甲

高四甲万石余

古ハ穴門国又穴戸

書ハ

○土産 米硯烟州

多クノ方ニ在ル方ニ在ル也

南ハ九州ノ地ニ在ル也

ナニシテ赤間集島海ノ玄海

海ノ北限ヨリテ南ニ至ル

地乃海門ナル也

石炭磁器素麩基石  
茶州海奥印籠

南海道々六箇

○紀伊 七郡

伊都那賀名州海部

有田日高牟婁

田數七百十九丁

高四甲万石余

古ハ本國又紀國

南海道々六箇國紀伊

伊都那賀名州海部

有田日高牟婁

田數七百十九丁

高四甲万石余





紀州和歌山浦

あきなる國よりして東南西乃  
 三方は皆海に臨む大和橋  
 大和橋を北の方山嶽  
 多々高野山紀伊川等聖  
 地は流るるも南に那智山

書ハ今紀伊國と書  
 てきの國標津國と書  
 くはの國と云小同ト  
 廳 和歌山七郡  
 ○土産 蜜柑良材  
 蜂蜜推茸漆器岩茸  
 精松煙鮫海魚海州  
 茶州奇石傘紙  
 ○淡路 二郡  
 三原津名

雲崖山の岬を北と南  
 西少東の北地を海  
 部郡と名付たるも粟多  
 社多あり和歌山餘の國  
 由て七郡名を稱す



田數二千八百七十丁

高九万八千石

古ハ淡道嶋まき淡道しづ道しづとも書す

○土産 陶器 木綿

五色撒石 海魚類

○阿波 十郡

三好 美馬 阿波 板野

麻植 名西 名東 勝浦

那賀 海部

田數五千二百四十五丁

高三十三万石余

廳 名東 徳嶋

古ハ粟とも書れり

○土産 藍玉 塩 木

綿材 木 索 麩 蛤 刺 燧

石 和布 鹿尾菜 海魚

○讃岐 十一郡 三島

大内 寒川 三木 山田

香川 阿野 鶴足 那珂

地理紀略

第一 淡路を經て北西に

當る大島に之倚る小

島あり。碓廬島と云

は日本第一の國何

ぞの洋も皆舟楫は興

先山あり。西流る三原川

四方に飛鳥村あり

第一 阿波の西に土佐の

藩存る界せり。及て石

浦に海軍一師あり。後



多度三野豊田

田數七千九百甲丁

小豆嶋塩館嶋直島

高三万石余

廳香川田高松

土産砂糖塩素

麩圓座海魚類

○伊豫 十四郡

宇磨所居野間周布

兼村越智同早和氣



豆中央より位吉山眉山

とす。東出芳野川良

北海より小乃二のつ湯り。

名東乃縣之阿波淡路。

百國一各名籍止

第四之則ち讃岐より東

もぐらもさ名取山行

山猪山五柳山より八栗

山龍乃河濱 山五庄車

所及を今に倣然とす



温泉伊豫。宇和喜多。浮穴久米。

田敷二百五十百五十

高四十六万石余

廳石鐵十郡。松山。神山。四郡。元錫。

○土産。銅紙。奉書。

萩原。希布。簾。木綿。

同。綿。炭。新。半。夏。茶。州。

素。麩。五。穀。海。魚。

昔ハ伊余又伊余ト  
ト書キテナリ

○土佐 七郡

安藝。香美。長岡。土佐。

吾川。高田。幡多。

田敷六千六百五十

高四十九万石余

廳 高知。一田

往古ハ土左。ま。都。

佐トモ書ク白鳳十

小豆。河。香。川。の。筋。を。一。國。此

管。轄。を。せ。る。廳。水。を。造。基。是

分。室。を。料。を。各。備。は。是。ハ。大。隊

第。五。の。あ。き。る。伊。豫。の。は。な。を

室。行。石。槌。山。南。に。行。山。中

央。と。唐。岩。島。あ。て。菅。生。山。東

南。土。佐。と。お。接。し。山。嶽。を

て。地。高。し。あ。少。方。な。海

岸。を。岬。灣。島。嶺。幅。を。せ。る。と

少。海。中。に。突。出。し。て。高。島。乃



三丰諸国大地震の時  
 當国の田地五十余  
 万頃没して海となり  
 此時伊豆国ふっの  
 鳴出来りりりりり  
 ○土産 紙類青紙  
 茶袋紙清長仙花紙  
 砂糖推茸樟松茂新  
 助鯉脯良材太布海  
 州芋種蜂蜜野根扱

形は蜂掃をふる。是を心伊  
 豫北少室山に在り。石藏を  
 十郡。神山系を四郡あり  
 一國之氣を室稜也  
 第にふるは土佐の國西北伊

洞糸

西海道十箇國

○筑前 十五郡

遠東は倭鞍手穂波  
 嘉麻上座下座夜須  
 御笠糟屋席田那珂  
 早良志摩怡土  
 田敷一万九千五百  
 高六十五万石余

陸の界を山と險阻重  
 疊の少なき地を山稜山  
 嶺とて峰白和山あり  
 矢野吉地山角山相山稜  
 山稜本山仁舞山あり南の



廳 福岡 一田

往古ハ筑紫とも又  
 至志とも書す後ハ  
 筑前筑後西國合ハ  
 惣テ西海道ハ筑紫と  
 以テ其國數々ヤ九國  
 三嶋ナリト大長元  
 年九月多祓嶋ト傳  
 テ大隅ホ入ル以後九  
 國ニ島ト稱ス

方ハ瀧山傍テ流ク溪川東  
 南ヲ岬トシ申テ抱ル南海ヲ  
 廣大ニ無邊トシ大瀕ナリ  
 高知一縣沿建ヌルレ  
 其一國ヲ官轄ス



筑紫 大宰府 天龍宮 社

西海道を十一國是亦四方  
 海原之西を吳越を  
 見ハル物解素クシレ  
 其第一筑前南を筑後  
 肥前ヲ橋シ以テ瀕ク申テ



大宰府  
 三笠郡あり則国  
 府なり當府の都て  
 九国二島を掌り且  
 諸蕃の末聘かよび  
 非常とまのり  
 諸蕃といへばて外国と  
 唐土ハ今の支那あり  
 三韓ハ今の朝鮮と  
 羅百濟高麗と改む  
 皇国ハ始く貢獻す  
 ろハ任那国めて百濟  
 の東南の国なりが  
 推古天皇の御代より  
 滅亡と  
 探題職  
 武家より此職を置く

龍高まの御笠山。和と米山  
 多像山。西に方に在る雷山。  
 少海原。よるに望見する。多  
 多生。其甲と。海と原と。まの言  
 海島。海を別言。海原。水と

古ハ馬韓辰韓弁韓  
 の三韓といふ。後ハ新  
 羅百濟高麗と改む  
 皇国ハ始く貢獻す  
 ろハ任那国めて百濟  
 の東南の国なりが  
 推古天皇の御代より  
 滅亡と  
 探題職  
 武家より此職を置く

海を松浦原。初を松浦に  
 出波皆一高と。管轄す  
 第二北まの。筑後より。多  
 山。山より。舟島。小と。繞るを  
 祝。山。中央。海を。多。江。水



伏見天皇<sup>二</sup>代<sup>一</sup>御宇永  
 仁元年<sup>一</sup>兼倉の執権  
 北条貞時との一族兼  
 時と始<sup>レ</sup>て法西の探  
 題と為<sup>レ</sup>て西国と  
 監督せ<sup>レ</sup>て同時<sup>一</sup>  
 長門にも探題と置  
 て中国と掌<sup>レ</sup>りしむ  
 文永十一年十月五日  
 元兵對馬<sup>一</sup>入寇す

ある。三瀬のむねを  
 第一に重<sup>レ</sup>前小瀬海軍の  
 音<sup>一</sup>皆山<sup>一</sup>を。陣<sup>一</sup>を  
 中<sup>一</sup>を。名<sup>一</sup>を。管<sup>一</sup>  
 小倉の船を。國<sup>一</sup>を。一<sup>一</sup>

十四日<sup>一</sup>吉岐を攻<sup>レ</sup>め賊  
 二嶋と破<sup>レ</sup>る  
 十九日二十日博多を攻<sup>レ</sup>  
 戦<sup>一</sup>官軍多く賊と  
 撃つ此夜大雨と  
 賊船多く破<sup>レ</sup>れ賊兵  
 遁走<sup>レ</sup>る賊軍不<sup>レ</sup>還者  
 一万三千五百余人賊  
 軍初<sup>一</sup>二万五千高瀬  
 軍八千合<sup>一</sup>て二万三千

移<sup>レ</sup>攻<sup>レ</sup>る。比<sup>一</sup>所<sup>一</sup>を。鎮<sup>一</sup>  
 者<sup>一</sup>も。兵<sup>一</sup>を。二<sup>一</sup>  
 隊<sup>一</sup>。者<sup>一</sup>も。兵<sup>一</sup>を。二<sup>一</sup>  
 第四<sup>一</sup>。後<sup>一</sup>。水<sup>一</sup>。面<sup>一</sup>  
 湾<sup>一</sup>。と。多<sup>一</sup>。西<sup>一</sup>。山<sup>一</sup>





阻ち。高崎山之四極山湯山  
 中野山錦嶽姫山紙山  
 其市之志。勢也。山嶽の噴  
 火多し。東南に涉る舟岡川。  
 大分縣を其國を皆一語ふ

人其殺さく。過半を  
 夫我兵の勇闘推し  
 て知る。建治四年  
 六月五日又賊と志賀嶋  
 小戦ふ是と敗る五日  
 より十二日至り九日の戦  
 争賊一度と勝とある  
 とつらつら肥前の獲  
 嶋小退く。国七月朔日  
 颯風大ふ作る賊船皆

管糧す  
 第五肥前を筑前と筑  
 後東北西南を子押第  
 嶋名中野自と一乃玉と紙  
 浦却北富饒其あひをま

地理注文

東海道

三







往古ハ豊國トシテ後  
 小前後の兩國ニ分ツ  
 ○土産 小倉嶋硫  
 黄水晶山州海魚

○豊後 八郡  
 国東速見大分海部  
 大野直入玖球日田

田數五万三千丁  
 高四十三万石余  
 廳 大分田



肥後阿蘇山の高嶽の圖

煙を絶やさば白山種山  
 當田山本山河川尻河ハ  
 代川を龍谷河に里。西北海  
 面ハ大野を三方野合を  
 龍谷河。三河野合は

代龍谷河。三河野合ハ  
 此河なる。比下ノ野合鎮  
 西北龍谷河を五里と云ふ  
 第七日向を山北方。矢山嶽  
 行標。臺尾山。龍谷河。三河



○土産 湯江基石  
 塩硝水晶 菌墨表黒  
 紺布 絞木綿 燧筆官  
 大竹 虎彪竹 切屢斗  
 鯨梅 海奥 炭材 木芥  
 州煙草  
 ○肥前 土郡  
 彼杵 高梁 松浦 藤津  
 杵嶋 小城 佐賀 三根  
 養父 基肄 神崎

田數二万三千四百七十一  
 高七十万六千石余  
 廳 長崎 肥前 三郡  
 佐賀 肥前 九郡  
 往古の火の国といふ後  
 肥后 肥前 小分  
 ○土産 米 石炭 磁  
 器 茶 烟 州 墨 表 紺 織  
 木綿 画筵 画簾 海魚  
 西介 鯨 鱈 鰯 海州

于種名を高く。西邊より高  
 峰。立多ふ。石筋。河。山。の。噴  
 出。れ。は。兼。祇。の。粘。鼻  
 紙。住。吉。山。牛。嶺。猪。所。川  
 よる。と。り。れ。少。そ。ま。北。河。一

有てゆく。志。院。川。を。大。河。こ  
 美。津。の。筋。を。玉。内。で。  
 五。郡。名。籍。時。を。ね。る。と  
 第八大隅三方ハ。山。と。ん。南。産  
 海。出。つ。肝。層。出。隔。二。粒。も。



○肥後 五郡

玉名山鹿菊池山本

阿蘇陀摩飽田合志

上益城下益城宇土

球摩芦比八代天早

田數二万三千四百

高八十四万石余

廳 白川九郡 熊本

八代六郡

○土產 米 麥 柑 陶



地理後集

卷之十一

十一

東南之分大岬熊毛郡を  
 程子修 馭漢郡を居る島  
 之。北南海對岸乃家。  
 海之凡二千里程。是を併  
 七之國と云ふ。都城乃新を

日三郡 常は之に對面す  
 第九薩摩を東南西三方  
 海之東北に間を日隅肥  
 橋を岬灣海に敷き  
 南之高き海門嶽薩摩



器紋木綿煙官磁石

皮籠燧石碁石海魚

海州藥州

○日向 五郡

児湯臼杵那珂宮崎

諸縣

田數八千二百六十丁

高三千四百石余

廳 都城日向三郡内

美津日向郡

富土とは是れ北より北より

紫尾山中央を薩摩山と

那山西北岬は那言島東

を北より日向山三嶽を

北より海たる西海龍崎

三島併せて一郡とん鹿

見山知ハ其國を一言に

まゝ大隅で二郡北印珠球

地併せて管轄新なるあり

此等の上流者多しあり

景行天皇代始り日

向国と名づけり

○土産 松材炭若

竹漆漆行茶黄葉茶

五倍子

○大隅 八郡

始羅肝属噉啖大隅

菱新素原熊毛取謨

田數四千七百七十丁

高十七万石



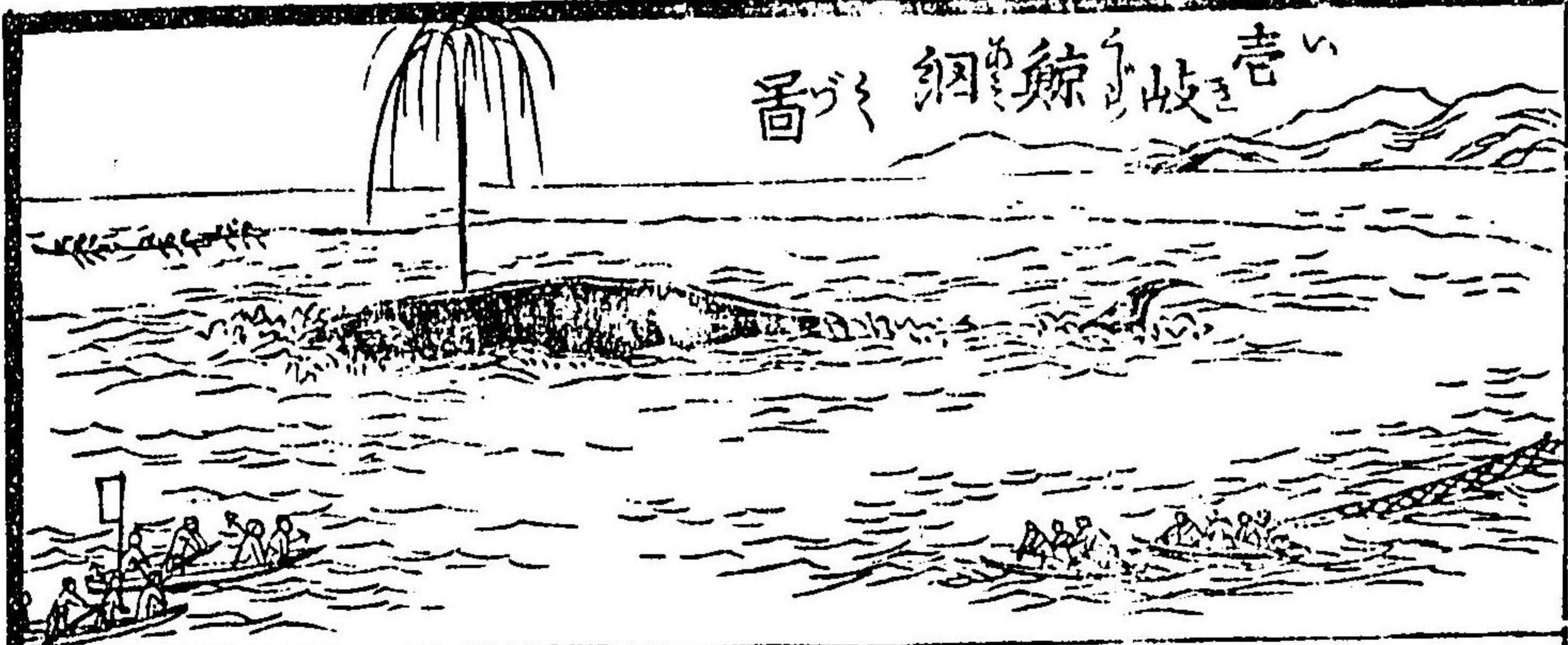
和洞六年四月日置  
 四郡と今て當国と置  
 く天長元年九月多  
 瀬島と傳く當国属  
 ○土産 鉄炮  
 ○薩摩 土郡  
 鹿児島 給黎 楫  
 宿願 娃河 辺阿多 日  
 置薩 伊作 出水 高  
 城 訖嶋

第拾の島は四小隊  
 第十壹夜は島も也肥  
 前は山多し一島も四方  
 岬湾も乃海も長し  
 突出せし島は名も言し

田敷二万五千石  
 高三万五千石余  
 廳 鹿児島縣  
 大隅三郡  
 薩摩二郡  
 琉球国  
 古くは報聞と書け  
 ○土産 黒糖 枳材  
 烟州 紅花 紫根 赤芋  
 硫黄 樟腦 太筆 牧馬  
 生蠟 木綿 緋粉 蠶人  
 參海人草 菘木

第十壹夜は島も也肥  
 前は山多し一島も四方  
 岬湾も乃海も長し  
 突出せし島は名も言し





吉岐の山は向山何事も劣  
 野の島は浅茅浦よ  
 海軍の音聞へる所  
 折九阿比松名を住音氣  
 紫北まといひ或は日向の

○吉岐 二郡

壹岐石田

田敷六百二十丁

高三万三千石

往古の伊吉嶋といふ

伊岐とも書け

○土産 綾布 海栗

鯨鯨

○對馬 二郡

上縣下縣

國と云ふ今北白隅薩三地  
 くらねむ本お開扉乃其  
 市北地ましくま松林代の  
 清沢野松るまを言  
 中つあまの



田數六百丁

高

古への津島又集嶋と

も書す對馬との三韓

の馬韓則ち百濟國

對馬より對馬一名

あり

土産 人参 青砥

石 弘推茸 鮑 蟹斗

海栗

夫我邦の地親も多し也良坤

の伸び四方を海志道以小

北中番をて寒を暖ふをく

争候和し穀財産富

饒ふそ不毛沙漠の所多く

○琉球國 十五島

沖繩嶋 計羅嶋 舞嶋

久米嶋 粟嶋 伊惠嶋

伊豆那嶋 惠平座嶋 鬼泉

嶋 大嶋 徳嶋 永良

部嶋 与論嶋 宮古嶋

八重嶋

以上十五嶋

主府の沖繩嶋 那覇

港あり 鹿兒嶋

悪獸毒蟲を絶ち

人患を道に樂しむ

皇化を慕ふ計を成り

之を以て孝悌書を尊重家

乃視通一充るを免



二百重肥前長崎造

三百里朝鮮釜山浦

四百五里多力サゴ造

二百五十里

○土産 朱琉球表

朱漆器駿馬太平布

芭蕉布棕桐皮椰肉

桂沱盛酒

本朝國郡名終

予其其種批抄卷

乃亥

日本地理沿革一

明治五壬申年十月上梓

安土町四町目

大阪府下 書林會社

同盟

書肆

石田和助

斐田正助

松邑九兵衛

金尾為七

赤志忠七

梶田喜藏



窮理 日新 發明記事

中本全三冊

右ノ書ハ蒸氣發明祖人ノ  
 來由ト記シ其發明ノ  
 器品圖画トナリテ委細ハ  
 書ヲシテナシテ今時  
 蒸氣船蒸氣車及ビ米  
 搗器織機械等ノ運用  
 自在トシ考ヒ便トシテ  
 開化ノ等發明ノ支ヲ助  
 ナルハ此書ノ大慶ナル

石村貞章先生輯  
 續々皇朝史略 中本  
 近刻  
 大槻盤溪先生増補

右ノ慶長五年關ヶ原  
 戰爭以來ノ内治  
 御一新ノ事トヤリク  
 朝廷ハ御歴代且文武ノ  
 任職進退ノ実事ヲ  
 正シ皇朝史略ノ文面ト  
 ナリテ新撰史略ト  
 ナリテ書クハ極ク  
 初学必讀ノ便書ナリ

諸

東京日暮橋三丁目  
 同 二丁目  
 同 芝神明町  
 同 南大傳馬町  
 同 大傳馬町三百  
 京都御幸町通池  
 同 寺町本願寺前  
 同 醒井通魚店  
 同 寺町通四条  
 大和奈良  
 同  
 和泉 堺  
 伊勢 津  
 尾張名古屋  
 駿河静岡  
 常陸水戸  
 陸奥仙臺  
 加賀金沢

國

須原屋茂兵衛  
 山城屋佐兵衛  
 岡田屋嘉七  
 近江屋半七  
 袋屋龜次郎  
 菱屋孫兵衛  
 錢屋惣四郎  
 丁子屋庄兵衛  
 田中屋治兵衛  
 米屋平藏  
 白銀屋弥三郎  
 河内屋久三郎  
 篠田屋伊十郎  
 永樂屋東四郎  
 本原屋市造  
 須原屋安次郎  
 菅原屋安兵衛  
 近岡屋太兵衛

賣

越中富山  
 出雲松江  
 播磨姫路  
 備前岡山  
 備中井原  
 備後福山  
 周防岩國  
 長門 萩  
 紀伊若山  
 冷路須本  
 阿波徳島  
 讃岐高松  
 土佐高知  
 筑前博多  
 肥前佐賀  
 肥後熊本  
 薩摩鹿嶋  
 肥前長崎

弘

上市屋宇助  
 尼ヶ崎屋喜三郎  
 灰ヶ崎屋輔治  
 中嶋屋益太郎  
 萩田屋長三  
 笹屋喜兵衛  
 米屋助左門  
 山城屋彦八  
 坂本屋大次郎  
 桑嶋屋文藏  
 天満屋武兵衛  
 本田屋茂兵衛  
 改田屋民藏  
 深屋弥助  
 紙屋栄助  
 豊前屋太平  
 青木屋泰輔  
 小野屋左右助







